

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

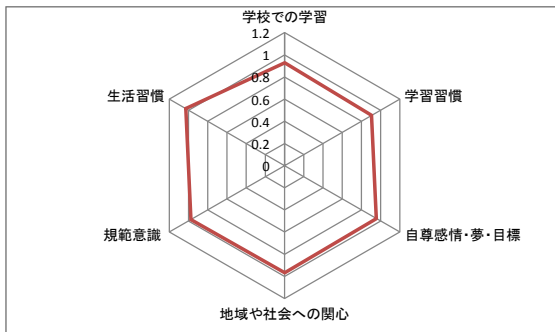
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	「話すこと」(能力)「聞くこと」(能力)に関する問題に課題がある。読む能力にも若干課題が残る。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく読む問題は比較的よくできている。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題での無回答率が高い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	言語についての知識・理解・技能に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する問題について正答率が高い。	
	努力が必要な問題	相手に説明したり、考えをまとめたりすることに課題がある。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	数と式、関数の課題が大きい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	線対象や点対象はよくできている。	
	努力が必要な問題	絶対値の意味や文字式の変形、比、関数に課題がある。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	資料の活用、図形に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題の場面における考察の対象を明確に捉えさせる問題で全国と同じ平均正答率であった。	
	努力が必要な問題	理論づけて説明することに課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	第1分野2領域及び第2分野2領域とも全国平均を下回っているが、分野領域間での偏りはない。説明や計算を求められる問題が苦手な生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	無脊椎動物と軟体動物の体の特徴に関する知識を活用する問題、アルミニウムの原子記号の表し方についての知識についての問題は比較的よくできている。	
	努力が必要な問題	さまざまな事象で起こる原因を説明したり、指摘したりする問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書や宿題はよくやっているが、家庭学習の時間が少ない。 ・問題の意味理解が十分ではないせいか、ねばり強さに課題がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・文章の意味理解を図るため、イメージ化を推進する。
- ・話し合うときは、相手にわかるように根拠(理由)をつけて話し合うように指導する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学習定着を図るため、最低1時間以上は学習するように指導している。
- ・自学ノート(家庭学習ノート)は、今日の授業の「めあて」と「まとめ」を書かせ、授業の振り返りをさせる。